



朝日子だより

学生編 Vol.13



吉田高校の皆さんへ

吉高生の皆さん、こんにちは！今年の実習で英語の授業を担当させてもらった渡辺です。今回は主に今自分が学んでいる大学についての紹介をしたいと思います。東京学芸大学は教員養成がメインの大学ですが教育学部に興味がある人もない人もご一読していただくと嬉しいです。

渡辺 和樹（平成24年度 理数科卒業）
東京学芸大学 教育学部中等教育教員養成課程 英語専攻

現在学んでいる内容

—— 口に英語の先生になりたいと言っても、基本的に英語の勉強をしていればいいというわけではありません。私の学科で学ぶ授業は大きく次のジャンルに分かれています。

教養科目（第二外国語、日本国憲法、スポーツフィットネスなど）

教育基礎科目（教職入門、英語科教育法、英語科教材論など）

専攻科目（英語音声学、英米文学、英文法研究など）

自由選択（自分の好きな授業）

上記のように英語に関する専門的な授業もありますが、ほとんどはそこまで深く突っ込むわけではないので、例えば英米文学を専攻でとっている者や外国語学部で学んでいる者に比べれば英語の専門性は高くありません。しかしながら、授業の組み立て方や教材の作成の仕方を学んだり、また教育に関する様々な法律を学んだりして将来教員になるために必要な授業が教育学部には揃っています。ただ、教育学部に入っていないなくても教員免許が取れる場合があるので、自分の専門的な能力を極めつつ、教員になる道を目指したいという人は教育学部以外の道を考えるのも一つの手だと思います。

また、私の学科は基本的に大学卒業までに必要な単位を3年次までで取りきれてしまうので、今は授業はほとんどありません。金曜の3限だけです。週休6日です。



大学の様子

個人的な感想ですが、マイペースでほのぼのしている学生が多いです。教員を目指している人が大半なので全体的に真面目という印象もありますが、いろんな意味で個性の強い人もちらほらいます。建物はざっくり言ってしまえば古めです。私立の大学の方や他の国公立に比べると見劣りします。自分の大学で良いなと思う場所を挙げるとすると、図書館とグラウンドの陸上トラックです。



2 つともここ数年で出来上がったものです。図書館は蔵書数こそ少ないですが開放的で勉強しやすく、陸上トラックは国公立にしては珍しく青のタータンを使っています。図書館にはカフェもあるので、オープンキャンパスで学芸大に立ち寄った時にはぜひ訪れてみてください。

東京学芸大学は最寄駅を東横線の学芸大学駅というところにかかなりの確率で間違えられますが、違います。武蔵小金井駅です。この武蔵小金井という町に関しては私はかなり気に入っていて、自然が豊かで都心ほどうるさくなくそれでいて都心へのアクセスも容易なので、大学自体よりも大学がある武蔵小金井の方が推しポイントです。



高校生と大学生の違い

大学における学びは高校の時と違って範囲が定まっていません。したがって自分が好きなことをとことん勉強しようと思えばとことん勉強できるし、逆もまた然りです。私は大学3年生の頃から第2言語習得に関する理論や実験について興味を持ち始め、授業外のところでも図書館の本などを借りて勉強するようになりました。自分が興味があってやっていることなので高校の頃よりも勉強ということに対して重荷を感じることは少なくなりました。

大学入学前と入学後の印象の差

学科の中での横と縦のつながりがとても深いです。私が所属する東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程英語専攻（長くてすいません）は全員で15人しかおらず、4年間クラス替えをするわけでもないので、まあ仲が良くなります。また、ほとんど授業も同じなので友達作りにもあまり苦労しませんでした。これだけ人数が少ないと同じ学部先輩や後輩とも関わる機会がとても多いです。1つ下の後輩が入学した時には1年と2年生合同のお花見をしました。また一緒に英語漬けのキャンプに参加したり、ゼミに参加したり、ご飯に行ったりもしています。私の付き合いのある中で1番年上の先輩は6歳くらい年上の先輩で縦の幅が本当に広いなとつくづく実感しました。



卒業後の進路



東京学芸大学においては半数以上の学生が教員になる道を選びます。そのため、大学4年の夏頃に教員採用試験を受けて、大学を卒業してからは各地方自治体で教員として働き始めます。教員にならずに他の職業に就く人もいます。自分が所属する英語科においてはCAになったり通訳者になったり教育系の出版社に勤めたりと自らの英語力を活かした職業や教育に関係する仕事に就いた人がいます。

吉高生に向けて

私は中学生の頃からぼんやりと教師になりたいという夢を抱いていて、今自分がいる大学に進学してきました。実際に吉田高校で実習をしてみて、教師という職業の素晴らしさを知りました。高校生の皆さんにとっては分かりづらいかもしれませんが、皆さんには若さがあり、パワーがあり、日々成長し続けています。そんな皆さんの成長をテレビに映っているドラマのように感じ、嬉しいこともあれば悲しいこともあります。とにかくいろいろな感情を生徒の側に立って享受できる職業は先生という職業の他には容易には見つからないと思います。したがって今まで自分がしてきた進路選択について後悔はほとんどありません。しかしながら大学に入って様々な学部や分野で活躍する仲間と話をすることで、世界には先生以外にも本当に面白い職業がたくさんあるということに気がつきました。高校生の時にもっとこういう話を聞く機会や様々な分野に関わる体験があれば今とは違うもっとワクワクした人生を送っていたかもしれません。ですから皆さんには今将来の夢を持っていようがまいが、広いアンテナを持って勉強や部活以外にも様々なことを経験してほしいと思います。経験の中のふとした感動や疑問でも将来皆さんが進路を決定していく上での確かな要素になると私は信じています。

皆さんの持つ素直でまっすぐな心でこの先の高校生活も楽しんで、かつ実りのあるものにしてください！皆さんのこれからの活躍を心から応援しています！

